

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
リスニング (85.7%)	・平均正答率は、昨年同様80%を超えており、英語を聞いて理解する力は十分満足できる状況にある。しかし、疑問詞が主語になっている疑問文に対する答え方の理解が不十分である。	・今後も、授業の前半は文字を通さずに英語を聞いて理解し応答する指導を続けていきたい。さらに、教科書本文内容のQ & A活動だけでなく、生徒の身近なことをQ & Aする活動を通して、疑問詞 who, what, which, how many ~などが主語になっている疑問文も用いながら、疑問詞を用いた疑問文に対する応答の仕方についても習熟させていきたい。
読解問題 (65.5%)	・平均正答率は、昨年より少しよくなっているが、60%台であり、十分満足できる状況とはいえない。長文対話読解問題、長文読解問題のいずれにおいても少しずつ理解の向上が見られるが、対話文の空所補充問題では、対話の流れの中で次に来る英文を予測する力が不十分である。また、内容が理解できていても、英語の問いに対して英文で答える場合に、文法的理解が不十分なためにミスをする傾向が引き続き多く見られる。	・現在継続して行っている指導は、教科書本文を読んで内容理解させるときに、最初に逐語的な読み取りをさせるのではなく、始めにリーディングポイントを示して概要をつかませる指導と、本文内容についての英問英答では、語や句レベルでの答え方だけでなく、文でも答えさせる指導である。今後はさらに、既習文法の整理・確認をさせるとともに、対話の流れを意識させて、よく使う表現に慣れさせていきたい。
文法・表現・英作文 (58.5%)	・平均正答率は、昨年度同様、他の領域より低く、60%を下回っている。特に、表現のための文法的な知識理解が不十分なため、並べ替え英作文では正答できても、対話文の空所補充や英作文になると、知識があいまいなため、時制や語順など情報伝達に重要な部分での間違いが多い。	・年度初めに、前年度の復習、特に英語による情報伝達に必要な基礎的・基本的文法事項(語順や時制など)の復習を十分に行う。さらに、日常の授業の中でも、既習事項の整理と、既習事項を用いた自己表現活動を多く取り入れて、知識・理解を相手に伝わる表現能力に生かせるように指導していきたい。
領域名 (平均正答率)		